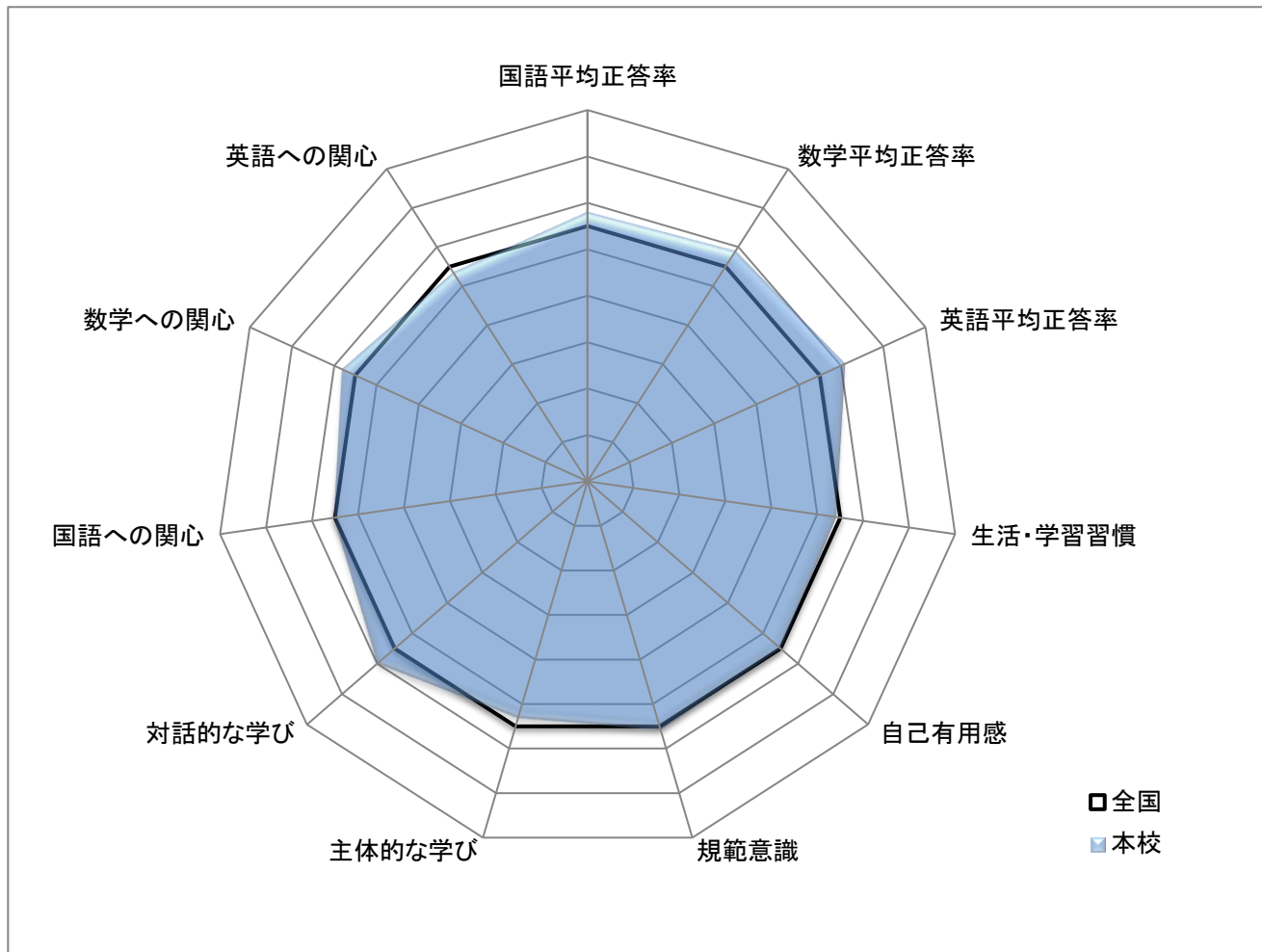


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】平均正答率全国平均+4.2%
 学習指導要領の内容、評価の観点、問題形式等の分類別区分において、全ての項目で全国平均を上回った。
 【数学】平均正答率全国平均+4.0%
 多くの項目で全国平均を上回ったが、学習指導要領の内容 Dデータの活用において、全国平均を2.3%下回った。
 【英語】平均正答率全国平均+5.4%
 問題形式別区分において、短答式の平均正答率が+7.2%と大きく上回った。

《授業改善のポイント》

【国語】
 思考・判断・表現を問われる問題の中で、目的や場面に応じて質問する内容を検討する問題に慣れさせる必要がある。
 【数学】
 データの活用に関する問題の平均正答率が低いため、複数のデータについて傾向を比較し、数学的な表現を用いて説明する演習を繰り返し行う必要がある。
 【英語】
 平均正答率が全国平均を大きく上回っているが、英語への関心については、全国平均を下回っている。学習前に自分の目標や解決した課題を明確化することで、主体的に学習に取り組み意欲向上を図る必要がある。

《チャートの特徴》

全体的に全国平均を上回っており、平均正答率においては全教科で4%以上の高得点を出している。一方で「主体的な学び」と「英語への関心」について全国平均値を下回っている。特に英語については、正答率において、全国平均を5.4%上回っているにもかかわらず、関心については唯一全国平均を下回った。「生活・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」等、基本的な生活についての意識は全国平均と同程度となっている。学習理解も十分高い水準を保っているが、教科等自体に対する興味・関心が高まっている状態とは言えない実情がある。

《家庭・地域への働きかけ》

各教科の特性を踏まえた上で、家庭学習と授業での学習を関連させ、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る。ベーシックドリルや学習タブレット端末を活用した自学自習を推進し、自らの課題を模索しながら学習に励むよう声掛けを行っていく。